



保存版

2024年3月改定

防災

マップ 2024

いつ起きるか分からない。
だから今、防災に備えよう。

町民の皆さまへ p.1

避難行動ガイド①・② p.2

避難行動判定フロー p.4

洪水・
浸水害について p.5

土砂災害について p.6

雪害対策について p.7

火災対策について p.8

地震対策について p.9

学ぼう防災 p.10

わが家の防災対策 p.11

備蓄品および
非常時持ち出し品 p.12

情報伝達 p.13

避難施設一覧 p.14

三島町全体図 p.15

詳細図 No.1～10 p.16

行政機関
ライフライン
気象・防災情報 巻末



「これまで大丈夫だったから」と油断することなく、「いざ」という時に速やかな避難行動をとるためには、日ごろから他人事と考えず防災意識を高め、災害に備えることが大切です。

いざという時に備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



避難行動ガイド②

避難行動に関しての行政発令の避難情報の種類と、住民の皆さまの対応

避難指示などは、災害の種類ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「**自主避難**」をお願いします。

区 分	立退き避難など住民の皆さまの行動
高齢者等避難	・気象情報に注意を払い、立退き避難の必要について考える。 ・立退き避難が必要と判断する場合は、その準備と立退き避難をする。 ・ 要配慮者（障がい者や高齢者で避難行動が困難な人）は、この段階で立退き避難をする。
避難指示	・非常時持ち出し品をもって、立退き避難をする。 ・立退き避難することが、かえって危険と判断される場合は、屋内で安全を確保する。
緊急安全確保	・既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。 ・町が災害発生を把握していない場合もあり、必ず発令されるものではないことに留意する。

※「**自主避難**」とは・・・避難指示などを待たず、自主的に地区集会所、親戚や友人の家などの安全な場所へ避難することです。その際は、出来るだけ必要な食糧、飲物、日用品などを持参するようにしてください。

※雨が降り続いていたら、テレビラジオ・スマートフォン・パソコンなどで最新の気象情報を入手しましょう。特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、自分で早めに判断し、「危険い」と思ったら、直ちに危険な区域から離れる行動（**自主避難**）することが命を守ることになります。

自主防災組織

自主防災組織の活動内容

自主防災組織とは、自治会などの単位で結成されるもので、地域のみなさんが自主的に連携して防災活動を行う団体のことをいいます。災害による被害を最小限におさめるためには、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が重要となります。

平 常 時

災害に備えるために、日頃から地域のみなさんに、防災知識・防災活動の必要性を理解してもらう活動を行います。

■地域内の安全点検

地域内の危険箇所や問題点を確認し改善します。

■防災知識の普及と啓発

地域住民に防災知識を広め、関心を持ってもらいます。

■防災訓練

災害に備え、消防署などの指導のもと訓練を行います。



災 害 時

人命を守り被害の拡大を防ぐために、地域のみなさんが協力して、火災の初期消火や負傷者等の救出・救護などを行います。

■初期消火

近隣のひとと初期消火活動を行います。

■救出・救助

負傷者などの救出・救助や、応急手当を行います。

■避難誘導

避難経路の安全を確認し、住民を避難場所へ誘導します。

■情報の収集と伝達

防災関係機関と連絡を取り、情報を住民に伝達します。

■避難所の管理と運営

避難所を立ちあげ、運営に協力します。



要配慮者への協力

高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方々は、災害時の避難行動や言葉の理解などで大きなハンデを負うことになります。地域のみなさんは日頃からコミュニケーションをとりあって、災害時には相手に適した誘導方法で早めの避難ができるように協力しましょう。

■高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には

高齢者や乳幼児は、手をつなぐ、背負うなどよりしっかり援護します。傷病者には複数の人で対応しましょう。

急を要するときは、ひも等を使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。

外国人の方で言葉が通じない場合には、身振りを交えて誘導します。



■車椅子を利用する人には

車椅子を利用する人の場合は、必ず3人で協力し、階段を上がるときには前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。



■目の不自由な人には

まず、「お手伝いしましょうか」などの声をかけましょう。話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で話し、誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。



■耳の不自由なひとには

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。



避難行動判定フロー

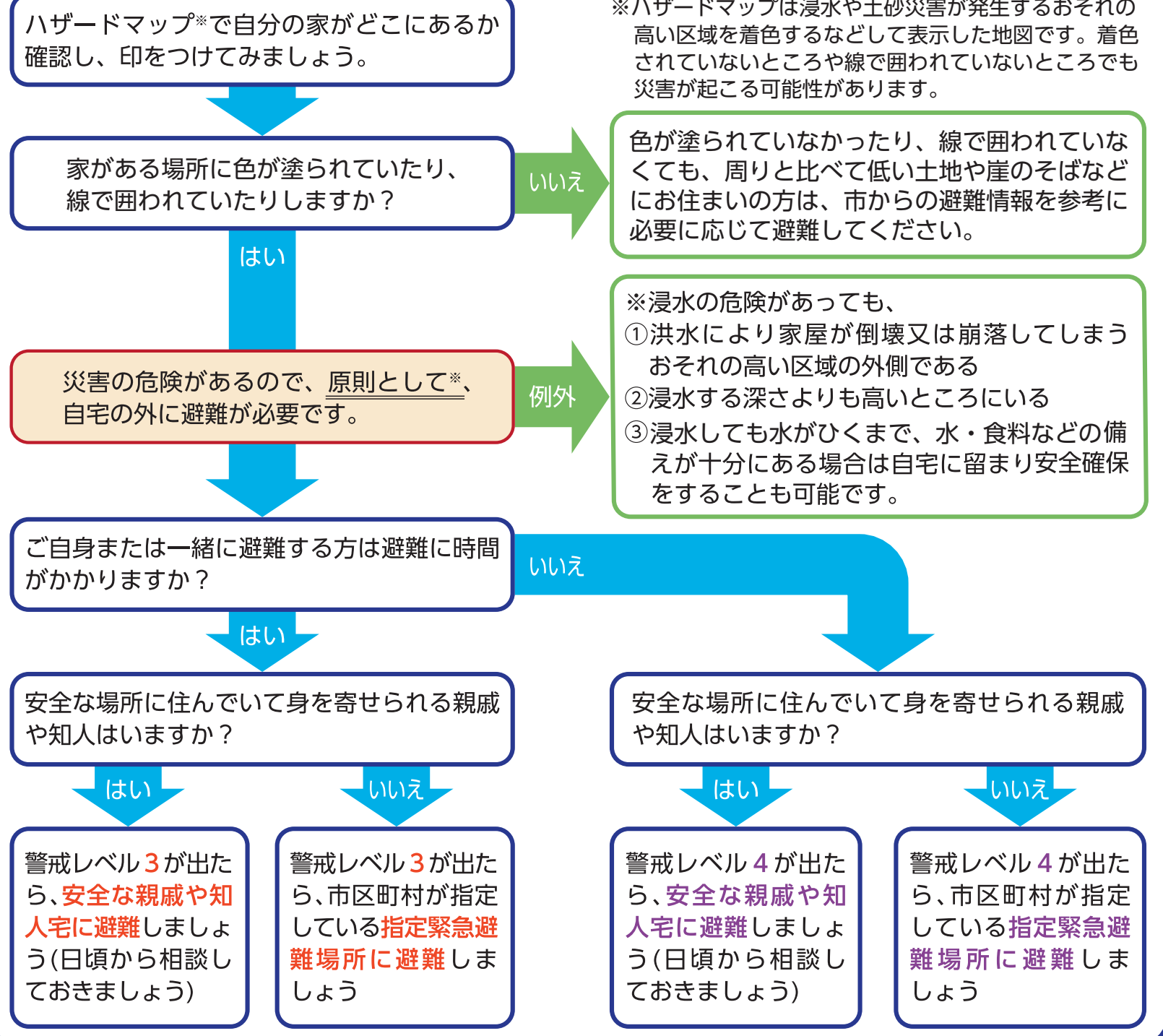
台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ 必ず取組みましょう



雪害対策について

除雪作業のポイント

雪下ろし作業には命綱を使いましょう！

- 転落防止のために命綱を使いましょう。
- 命綱を固定するには、専用のアンカーを屋根に取り付ける、反対側の立ち木や家の柱に結ぶなど、状況に応じて工夫しましょう。



足場はいつも注意！ はしごはしっかり固定しましょう

無理な作業はやめましょう！

- 体調の悪いときは無理をしないで休みましょう。
- 作業前に準備運動をしっかり行いましょう。
- 十分に休憩を取りながら、何回かに分けて作業をしましょう。

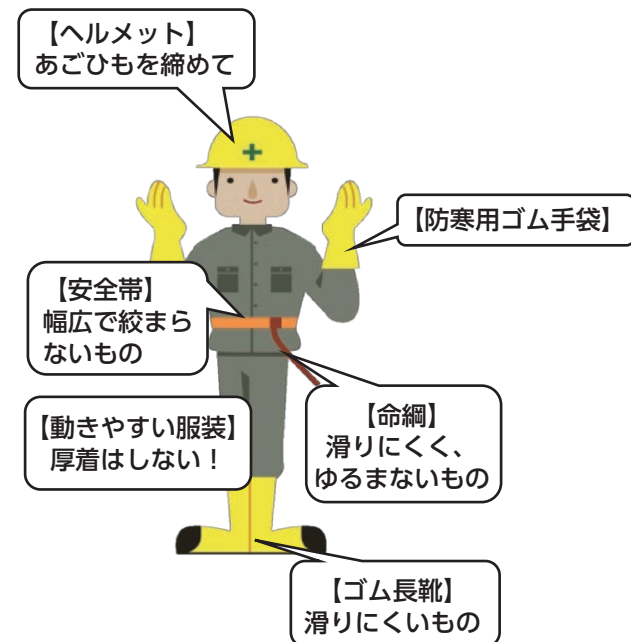
冬の交通安全には特に気をつけましょう

- 冬場のお出かけは時間に余裕をもちましょう。
- 早めにスタッドレスタイヤに取り換えましょう。
- 雪道や凍結した道路の運転では、急ハンドル、急ブレーキ、急加速は危険です。
- スピードを抑えて安全運転に心がけましょう。
- 積雪時は道幅がせまくなっていることがあります。
- 作業中の除雪車には近づかないようにしましょう。



作業は必ず2人以上で行いましょう！

- 事故に備えて2人以上で作業をしましょう。
- やむを得ず1人で作業する場合は、家族やご近所に声をかけましょう。
- 携帯電話を持ちましょう。



雪下ろしは安全な服装で！

- ヘルメットを正しく着用しましょう。
- 動きやすい服装にしましょう。
- 厚底の長靴は避けましょう。
- すべりにくい防寒性のゴム手袋がお勧めです。

■大雪で車が立ち往生した時

車のエンジンから排出される排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。大雪によって車が立ち往生した際、排気口（マフラー）が雪で埋もれてしまうと、排気ガスが床下などにたまり、ボディの隙間や外気導入口などから車室内に入り込む可能性が高まり一酸化炭素中毒を引き起こすリスクが非常に高くなるので、大雪で立ち往生した時には、こまめに除雪しましょう。

火災対策について

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。

◆火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火（斜めにかけると石油が飛び散って危険）。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類（化繊は避ける）やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火する。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて（できればブレーカーも切る）消火する。

カーテン・ふすま

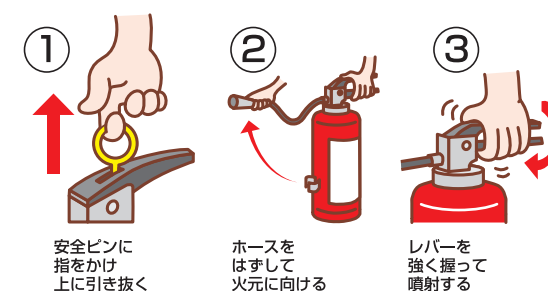
カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけた上で消火する。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、消火の限界。速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 一酸化炭素などの有毒ガスを含んだ煙を吸い込まないように低い姿勢でマスク・タオル等で口をふさいで逃げる。

消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



◆消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正面から立ち向かわないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



❖火災予防が一番!!

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

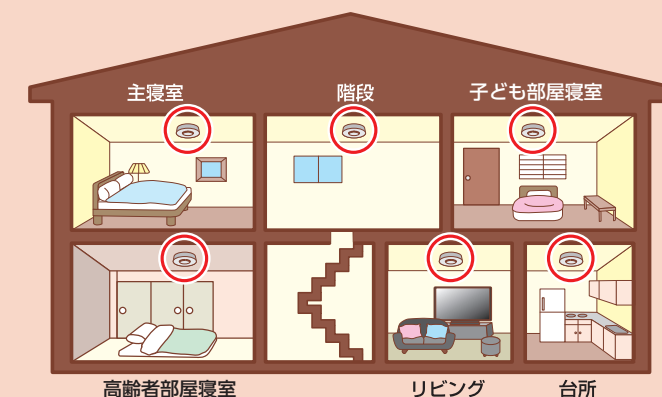
火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

住宅用火災警報器は、「煙式」と「熱式」の2種類があります。火災発生時、まず最初に発生するのは「煙」です。ある程度部屋の温度が上がらないと鳴らない熱式よりも、煙が発生した時点である煙式のほうがいち早く火災の発生を知ることができます。このことから、寝室にも台所にも煙式を推奨しています。

住宅用火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室（子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります）への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所、リビングへの設置もお勧めします（任意設置）。

注意：種類によって異なりますが、住宅用火災警報器の交換時期は、おおむね10年です。早めの交換をお願いします。





地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

とにかく自分の身を守ろう！

地震だ！ まず身の安全

大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。



しっかり火の始末で、火災防止！

大揺れがおさまった

台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉めましょう。



わが家の安全確認、確保！

火の始末のあと

家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。



隣近所の安否確認、助け合い！

外に出たあと

家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。



2、3日は自分でしのぐ！

避難後、数日間

地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気などの供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品（非常用品）を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに（コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに）。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない（ガラスの破片などでケガをする）。

商店・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



屋外にいた場合

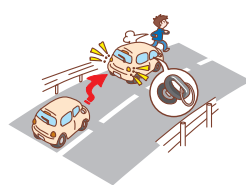
路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



公共交通などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



学ぼう防災

「命を守る」ための防災教育

避難するとき

特に洪水時に避難するときは、

川のそばの道路の利用は避けましょう。

水があふれたりする場合があり大変危険です。



避難がおくれ、危険がせまった場合は、近くの丈夫な建物の3階以上に逃げましょう。



ラジオ・テレビで最新の気象情報に注意しましょう。



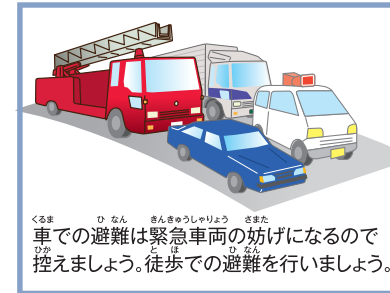
避難時は、役場・消防署・警察署などの指示にしたがい、早めに避難をしましょう。



避難するまでに、電気・ガスなどの火元を消し、必要なものをまとめておきましょう。



近くの避難所の場所を、確認しておきましょう。



車での避難は緊急車両の妨けになるので控えましょう。徒歩での避難を行いましょう。



浸水した所は、溝や水路に気づきにくいので、十分注意して避難しましょう。



役場、消防署からの避難の呼びかけに注意しましょう。



洪水時の、はだし、長靴での避難は危険です。動きやすい運動靴で避難しましょう。

助け合いましょう

体の不自由な方や、お年寄りの方は避難することが困難であったり

遅れたりすることがあるため、みんなで協力して助けあいましょう。

目の不自由な方には



声をかけて一緒に行動しましょう。

一人暮らしのお年寄りの方には



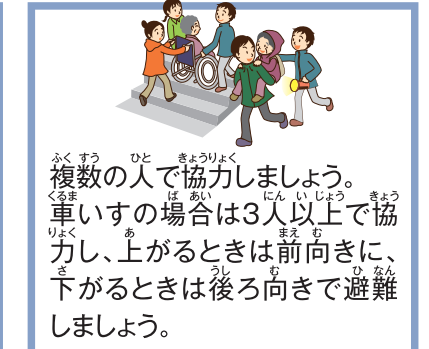
普段から気をくばりましょう。

耳が不自由な方には



まっすぐ顔をむけ、口を大きくはっきり動かしましょう。紙に書いたり、身振りで情報をわかりやすく伝えましょう。

体の不自由な方には寝たきりの方には



複数の人で協力しましょう。車いすの場合は3人以上で協力し、上がるときは前向きに、下がる時は後ろ向きで避難しましょう。

避難所では

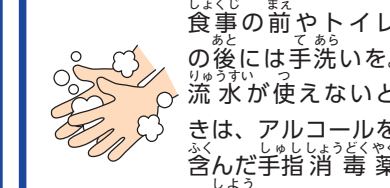
たくさんの方々が共同で生活するため、お互いの心くばりや思いやりが大切です。不安な気持ちで避難していますので、お互いに気持ちよく過ごせるよう努めましょう。

① 水分・塩分補給をこまめに



トイレを気にして水を飲む量が減りがちです。こまめな水分・塩分補給で熱中症予防をしましょう。

② 手を清潔に



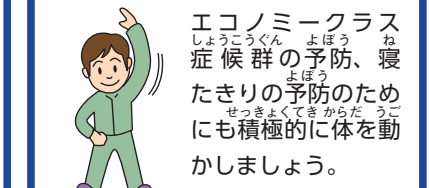
食事の前やトイレの後には手洗いを。流水が使えないときは、アルコールを含んだ手指消毒薬を使用しましょう。

③ 食中毒に注意！



出された食事はすぐに食べましょう。下痢、発熱、手指に傷がある人は、調理や配食を行わないようにしましょう。

④ 体の運動



エコノミークラス症候群の予防、寝たきりの予防のためにも積極的に体を動かしましょう。

⑤ うがい・歯磨き



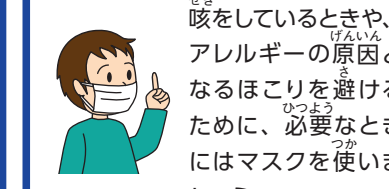
うがい、歯磨きをできるだけ行い、かぜの予防、口の中の衛生を保ちましょう。

⑥ 十分な睡眠・休息



誰もが不安を感じています。休息や睡眠を意識してとりましょう。

⑦ 必要なときにはマスクを着用



咳をしているときや、アレルギーの原因となるほりりを避けるために、必要なときにはマスクを使いましょう。

⑧ 薬で困っている場合は相談を



薬が手元になかったり、薬で困っているときは、医師、薬剤師、保健師などに相談を。

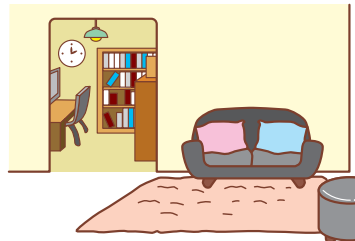
わが家の防災対策

家の中の安全対策

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



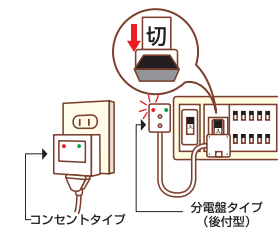
家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気に関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災（破損した電気コードのショートによる出火など）がある。電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



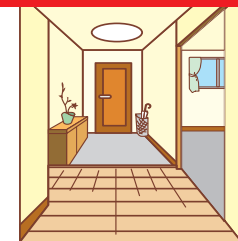
寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。

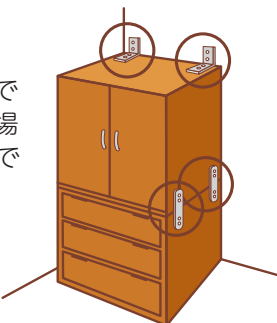


家具の転倒、落下を防ぐポイント

●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

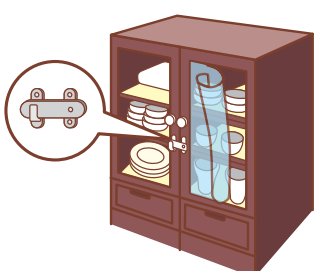
ダンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



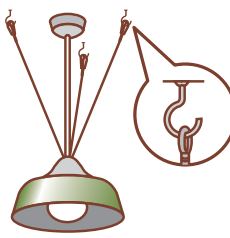
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふさんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



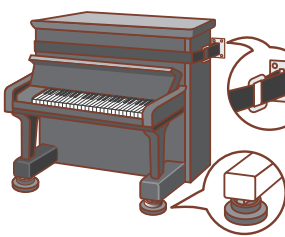
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



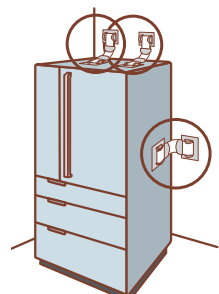
ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



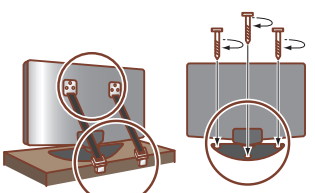
冷蔵庫

所定の取り付け場所（運搬用取っ手など）を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。

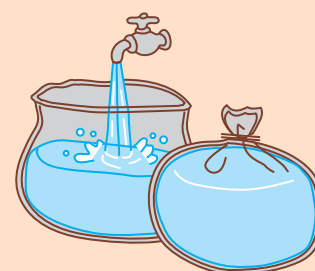


住宅の浸水被害を防ぐには

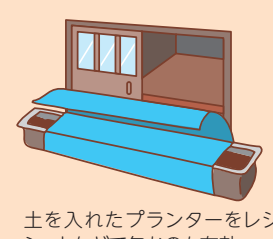
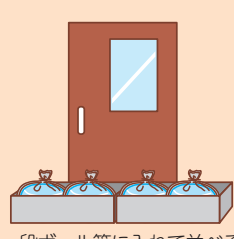
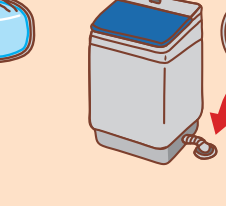
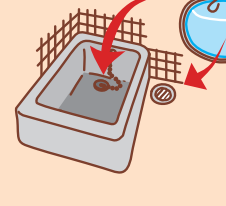
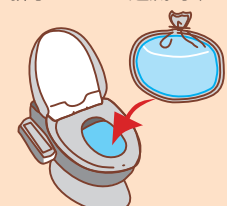
浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入口となるところを塞ぐことで水の侵入を減少させることができます。トイレなどの逆流防止にも有効です。※実施の際には避難の妨げにならないように気を付けてください。

「水のう」の作り方

40L程度のゴミ袋を二重にして半分程度の水を入れる
空気を抜いて口をしぼる



排水口からの逆流対策に



備蓄品および非常時持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常時持ち出し品」。

災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。

以下は一例です。とくに非常時持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性 15kg 女性 10kg が目安)

非常時持ち出し品

●事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

貴重品

- ☐ 現金 ※公衆電話用に硬貨も
- ☐ 印鑑
- ☐ 家や車の予備鍵
- ☐ 証書類のコピー
(健康保険証、免許証、通帳、保険証書、権利書など)

情報収集用品

- ☐ 携帯ラジオ ※予備電池も
- ☐ 携帯電話(スマートフォン)の充電器
- ☐ モバイルバッテリー ※ライト付きが便利
- ☐ 筆記用具

非常飲食品など

- ☐ 非常食
※軽く高カロリーのもの
- ☐ 飲料水
- ☐ 給水袋
- ☐ 万能ナイフ

衛生用品

- ☐ 救急セット
※常備薬も
- ☐ タオル
- ☐ マスク
- ☐ 消毒液
- ☐ 体温計
- ☐ トイレットペーパー
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ビニール袋
- ☐ 下着類
- ☐ オムツ

安全用品

- ☐ 懐中電灯
※予備電池も
- ☐ ヘルメット
- ☐ 防災ずきん
- ☐ 軍手
- ☐ スリッパ
- ☐ 笛やブザー
※居場所を知らせるもの
- ☐ マッチ・ライター
- ☐ 毛布・保温シート
- ☐ 使い捨てカイロ

女性向け

- ☐ 生理用品(生理1周期分)
- ☐ おりものシート
- ☐ 携帯用ビデ、軟膏
- ☐ スキンケア用品
基礎化粧品等



定期的に点検を！

いざというときに支障がないように食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

備蓄品

●少なくとも3日(できれば1週間)は自力で生活できるように準備

- ・飲料水 ※1人1日3L
- ・食品 ※アルファ化米、長期保存食品など専用品の他、下記ローリングストックの活用を
- ・給水用ポリタンク・バケツ
- ・カセットコンロ・ガスボンベ
- ・使い捨ての食器類
- ・食品用ラップ
- ・ランタン

- ・災害用トイレセット
- ・からだ拭きシート
- ・水のいらないシャンプー
- ・ガムテープ
- ・ビニールシート



上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

ローリングストックについて

備蓄専用の保存食なども大切ですが、普段から少し多めに食料品や日用品を買っておき、使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の備蓄を自宅に確保しておくことをローリングストックと言います。日常生活の中に、非常備蓄を上手に組み込みましょう。

一対象品目の例ー

ペットボトルの水や飲み物、レトルト食品、インスタント食品、お菓子、乾麺、缶詰、乾物、漬物
カセットコンロのボンベ、ウェットティッシュ、トイレットペーパー、食品用ラップ、ビニール袋、乾電池、使い捨てカイロ



「情報伝達」～避難後の伝言・伝達方法～

避難後の伝言・伝達方法を知っておこう。

避難した後



避難所での
掲示板



災害用伝言
ダイヤル171



災害用伝言板

災害用伝言ダイヤル171

災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。被災地の方が、安否情報（伝言）を音声で録音することで、全国からその音声を再生することができます。

利用方法



災害用伝言ダイヤルとは？

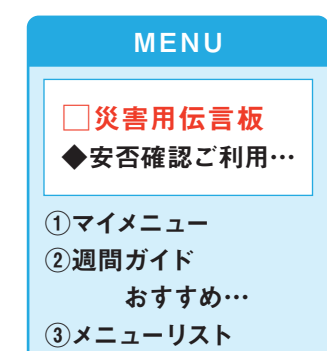
NTTでは、災害発生時に、被災地への通信がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。NTT「災害用伝言板（web171）」との連携により、伝言内容を相互に確認が可能。「171」をダイヤルし利用ガイドに従って、伝言の録音・再生を行って下さい。

伝言保存期間	運用期間終了まで	利用可能電話	加入電話、ISNネット、公衆電話、ひかり電話からご利用できます。 ※ISNネット、ひかり電話でダイヤル式電話をお使いの場合にはご利用になれません。 ※携帯電話、他通信事業者の電話からのご利用については、ご契約の各通信事業者にお問い合わせ下さい。
伝言蓄積数	1電話番号あたり1～20件 (提供時にお知らせいたします)		
伝言内容	1伝言あたり30秒以内		

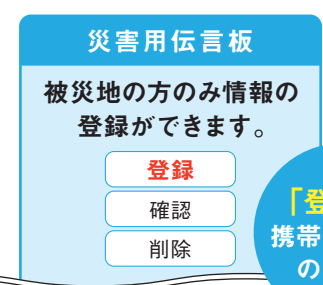
災害用伝言板 (携帯電話・スマートフォン)

携帯電話のインターネット接続機能で、被災地の方が文字でメッセージを登録し、携帯電話番号をもとにして全国から伝言を確認できます。
(スマートフォンでのご利用については、各社のページでご確認ください。)

利用方法【画面例】

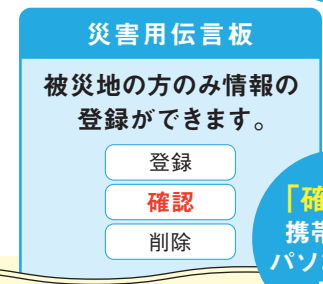


登録

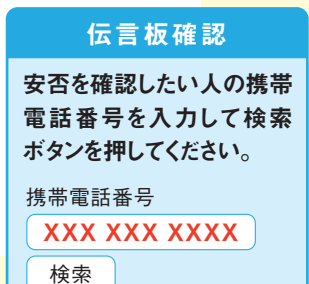
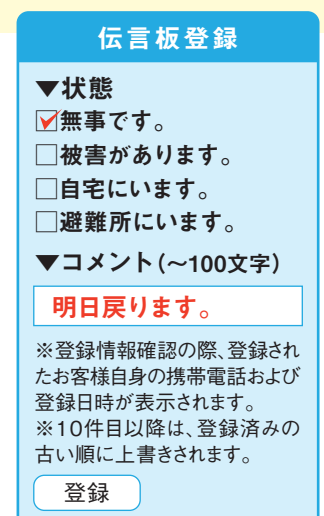


「登録」は
携帯電話からのみ可能

確認



「確認」は
携帯電話・パソコンから可能



避難施設一覧

避難施設の種類

避難場所

災害発生後の一時避難場所として、学校のグラウンド・公園・公共施設などを指定しています。

避難所

災害による家屋の倒壊などで、居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

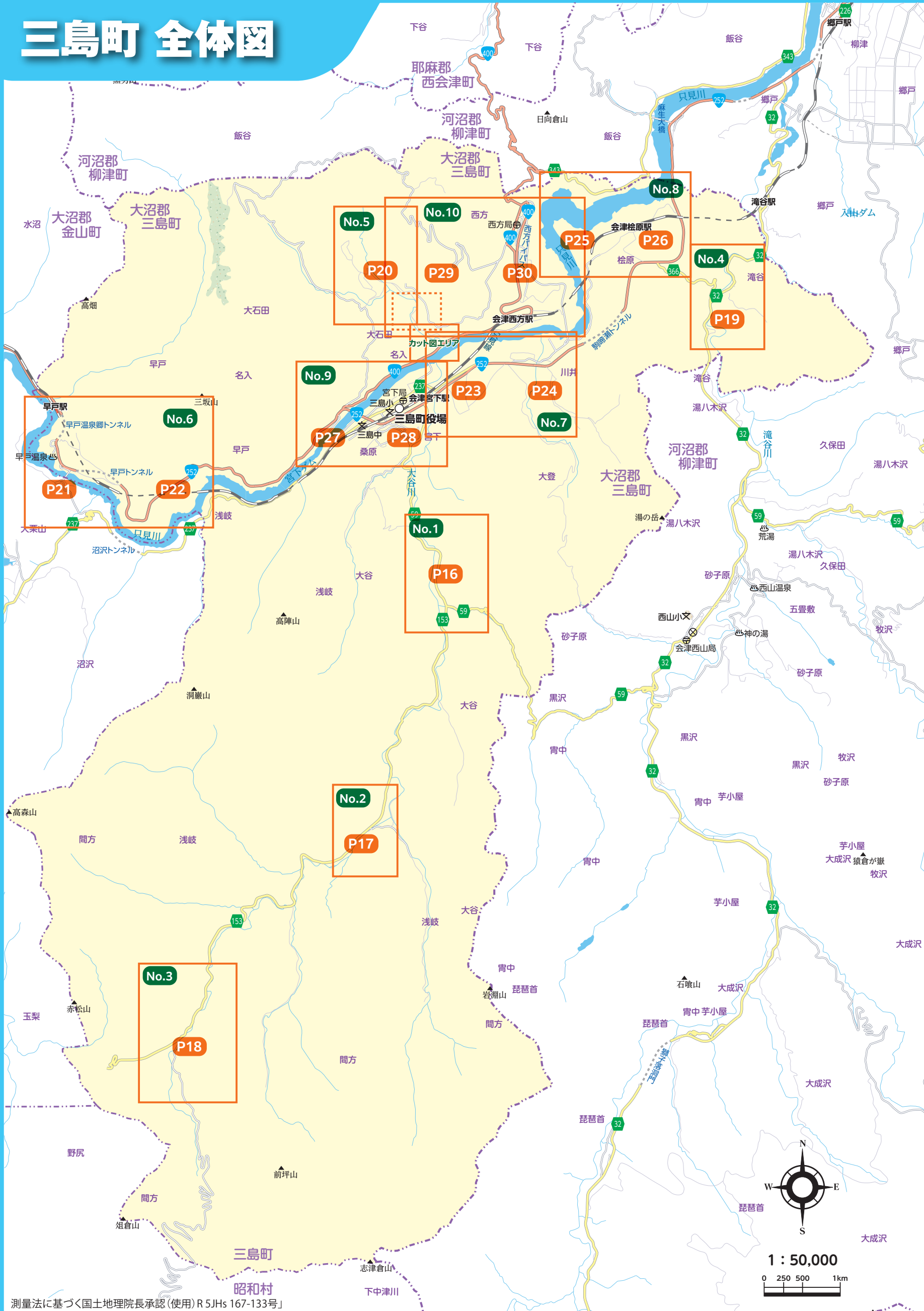
避難場所・避難所一覧

令和6年3月現在

No.	集落名	施設名	掲載頁	災害用指定避難所			国民保護用指定避難所
				対応災害区分			
				地震	洪水	土砂災害	
							ミサイルなど 武力攻撃対応
1	宮下・荒屋敷・桑原	三島小学校	P28	●	●	●	●
2	宮下・荒屋敷・桑原	三島中学校	P27	●	●	●	●
3	桑原	桑原集会所	P27	●	●	●	
4	大登	大登生活改善センター	P23	●	●	●	
5	川井	川井集会所	P24	●	●	●	●
6	松原	松原多目的集会所	P26	●	●	●	●
7	滝谷	滝谷集会所	P19	●	●		
8	大谷	大谷活性化センター	P16	●	●	●	●
9	浅岐	浅岐集会所	P17	●	●		
10	間方	間方集会所	P18	●	●		
11	西方	三島町生涯学習センター	P30	●	●	●	●
12	西方	三島町ふるさとセンター	P30	●	●	●	●
13	名入	名入集会所	P30	●	●	●	
14	清水・小山	清水集会所	P27	●	●		
15	滝原	滝原林業集会センター	P22	●	●		
16	早戸	早戸生活改善センター	P21	●	●		
17	名入	三島町交流センター山びこ	P30	●	●	●	●
18	宮下・荒屋敷・桑原	三島町町民センター	P28	●	●	●	●
19	名入	三島町生活工芸館	P30	●	●	●	●
20	宮下・荒屋敷	三島保育所	P28	●	●	●	●
21	宮下	大谷川河川敷公園	P23・28	●		●	
22	大登・川井	三島町町営グラウンド	P23	●	●	●	
23	宮下・小山	特別養護老人ホーム 桐寿苑	P28	●	●	●	
24	宮下・小山	高齢者福祉センター 福寿草	P28	●	●	●	
25	宮下・小山	多目的集会施設 ひだまり	P28	●	●	●	●
26	大石田	大石田集会所	P20	●	●		
27	名入	三島町工人の館	P30	●	●	●	
28	宮下	宮下活性化センター	P28				●

※避難所の開設は、広報等でお知らせします。

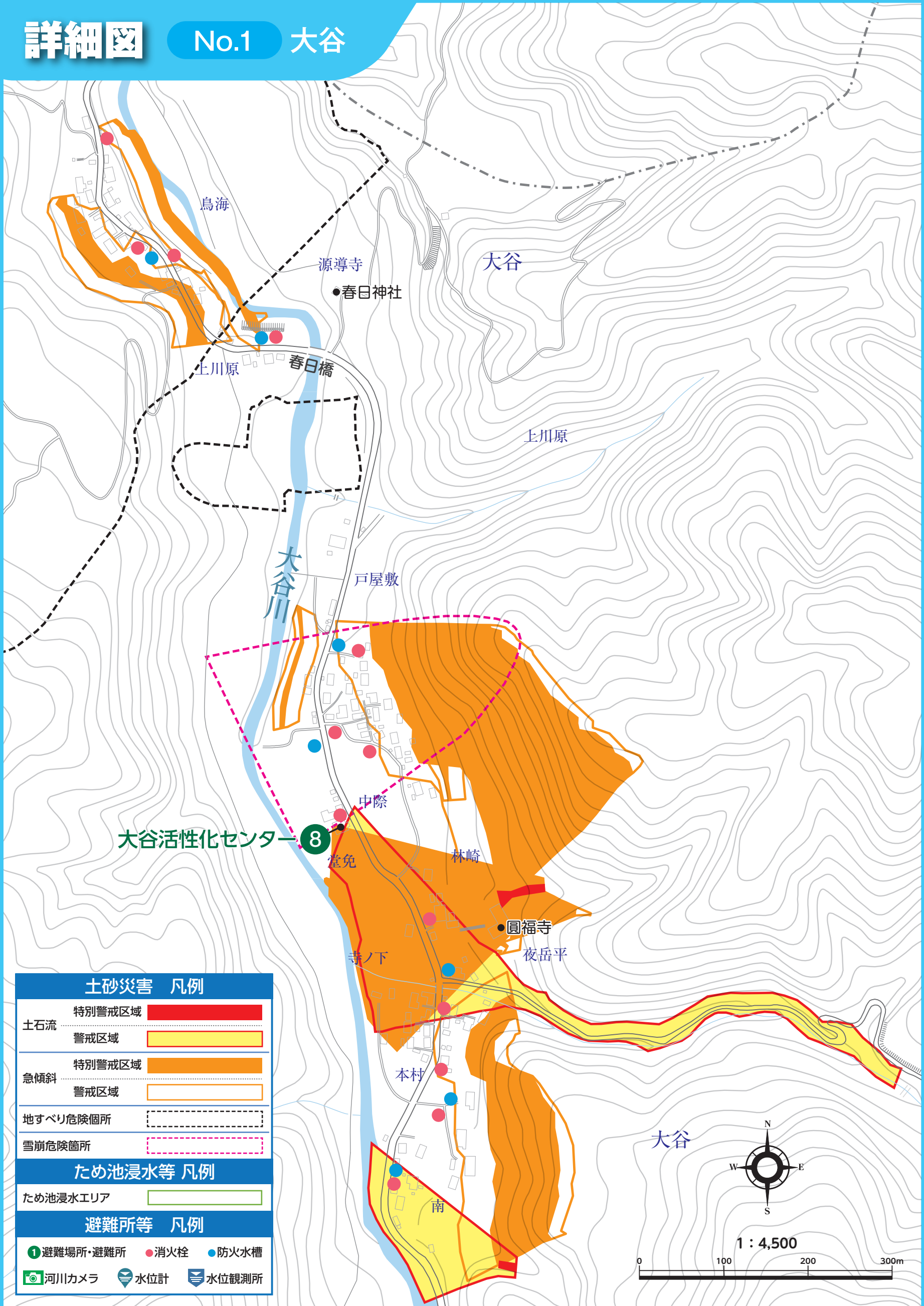
三島町 全体図



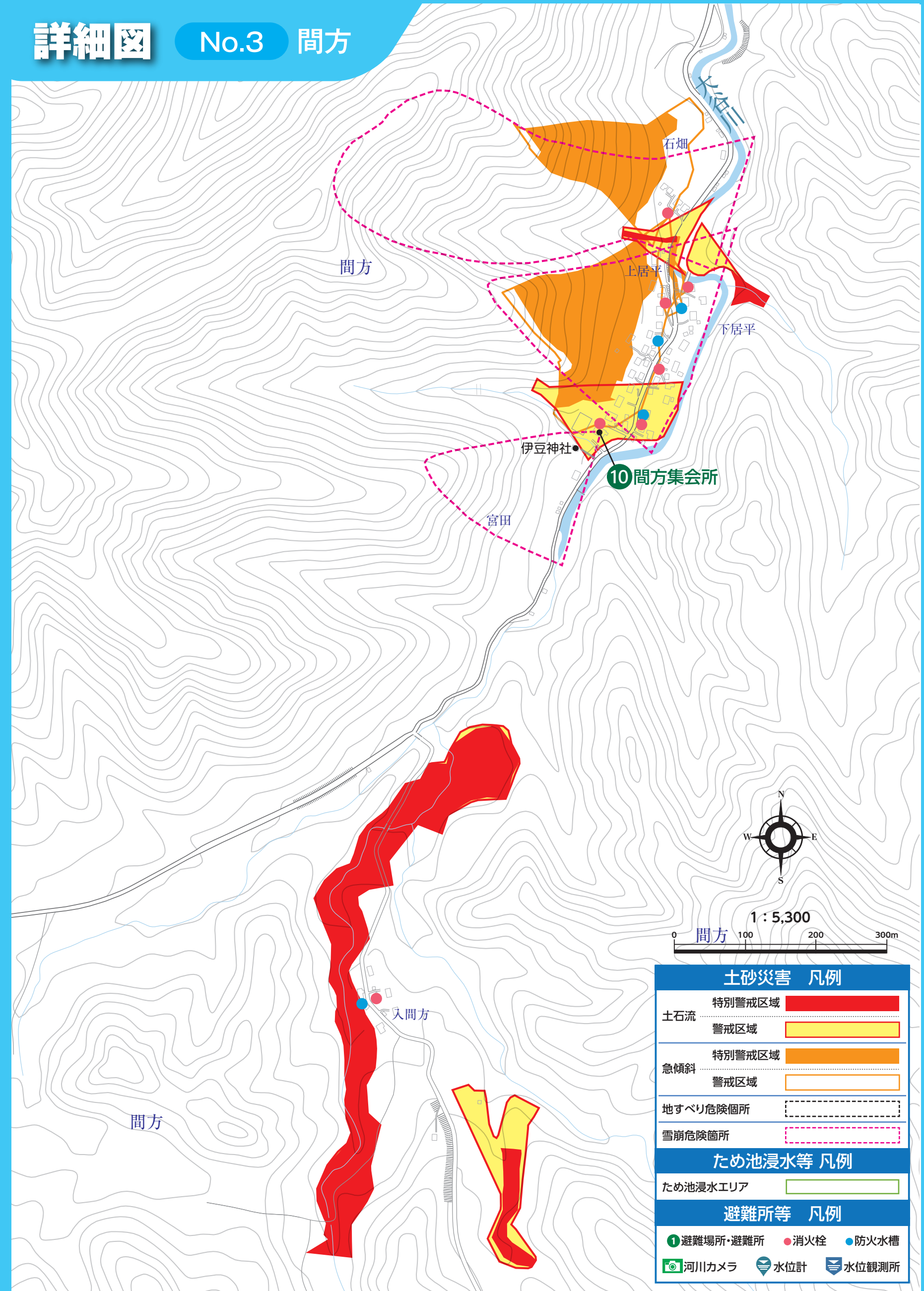
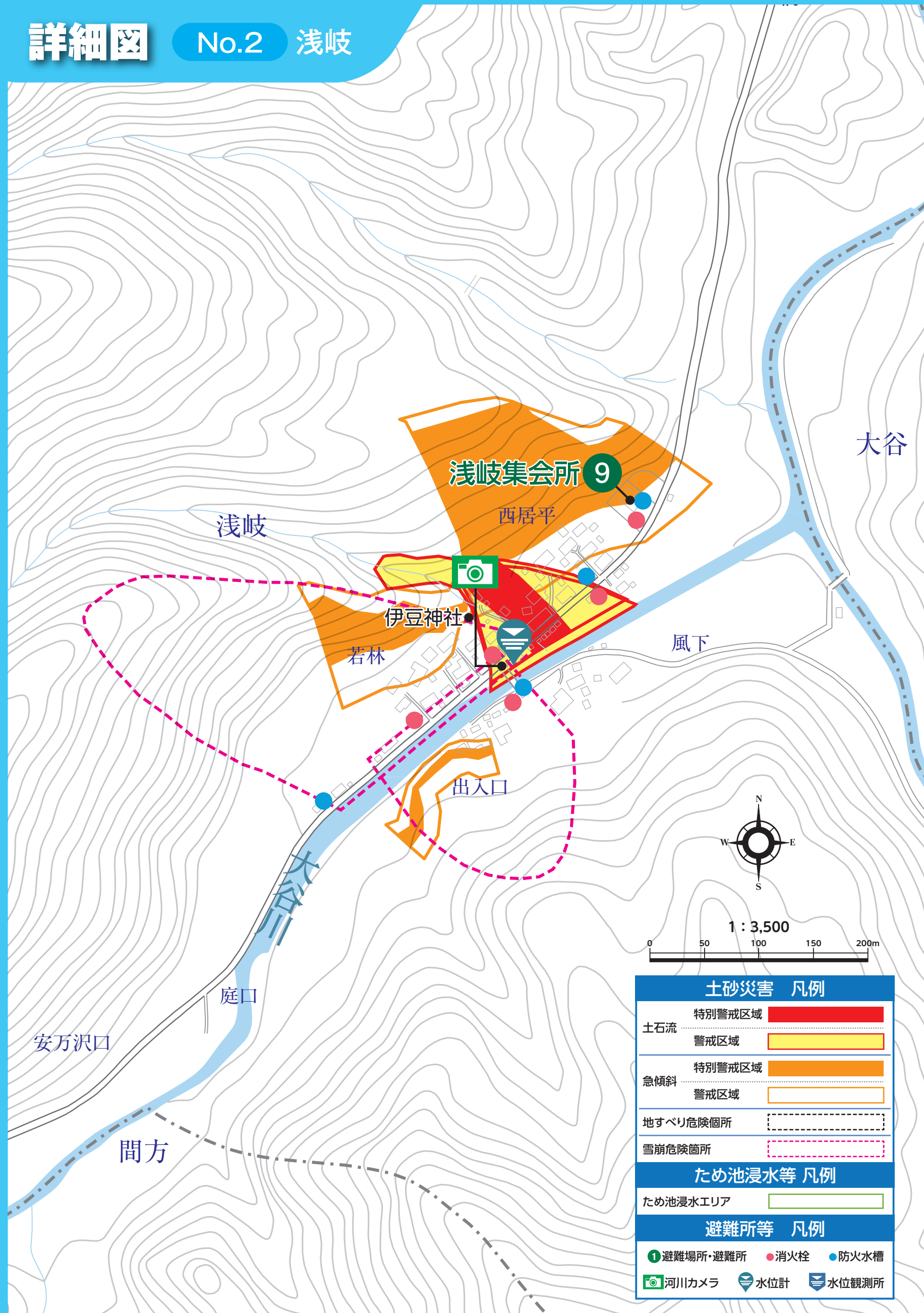
測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 5JHs 167-133号

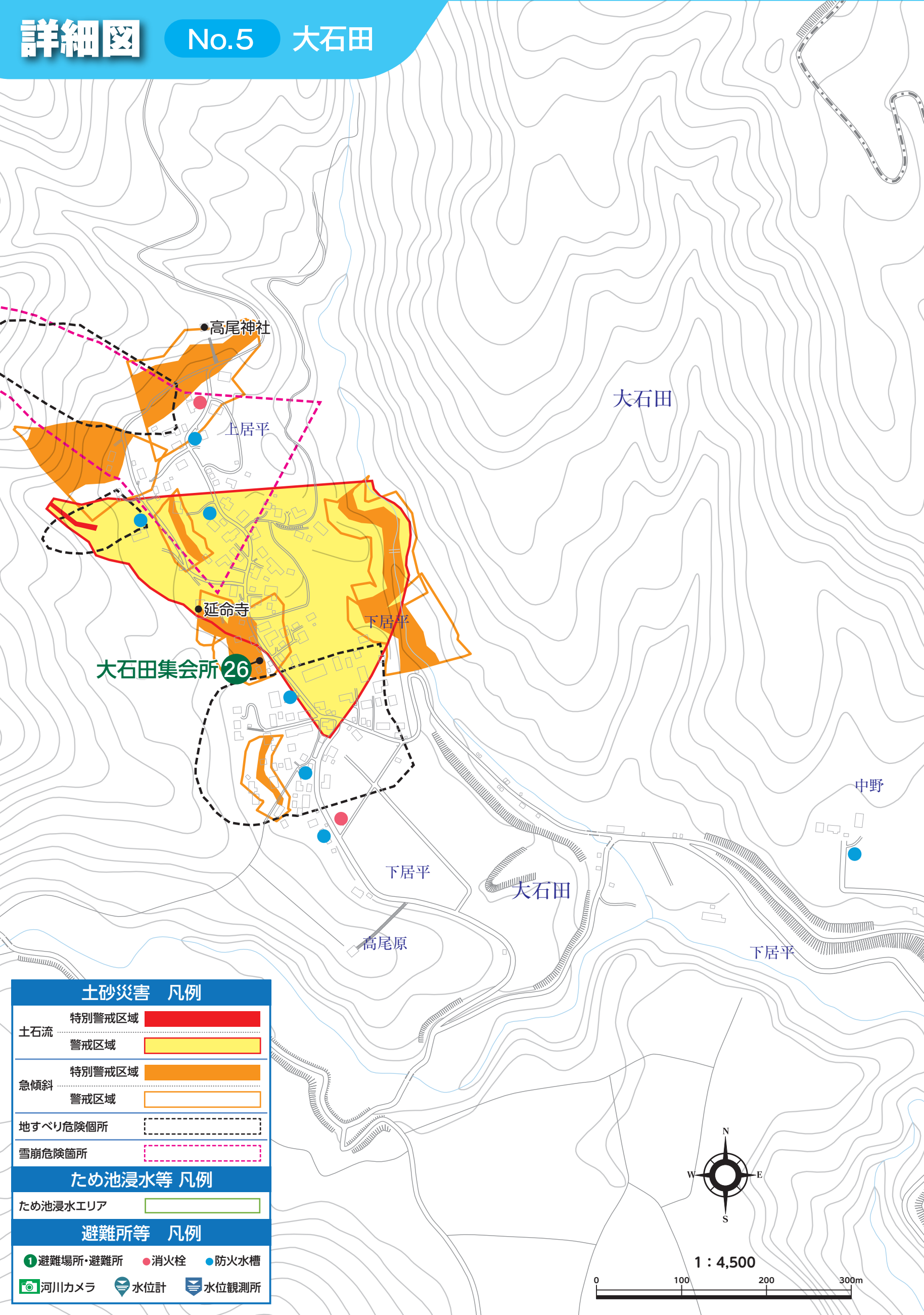
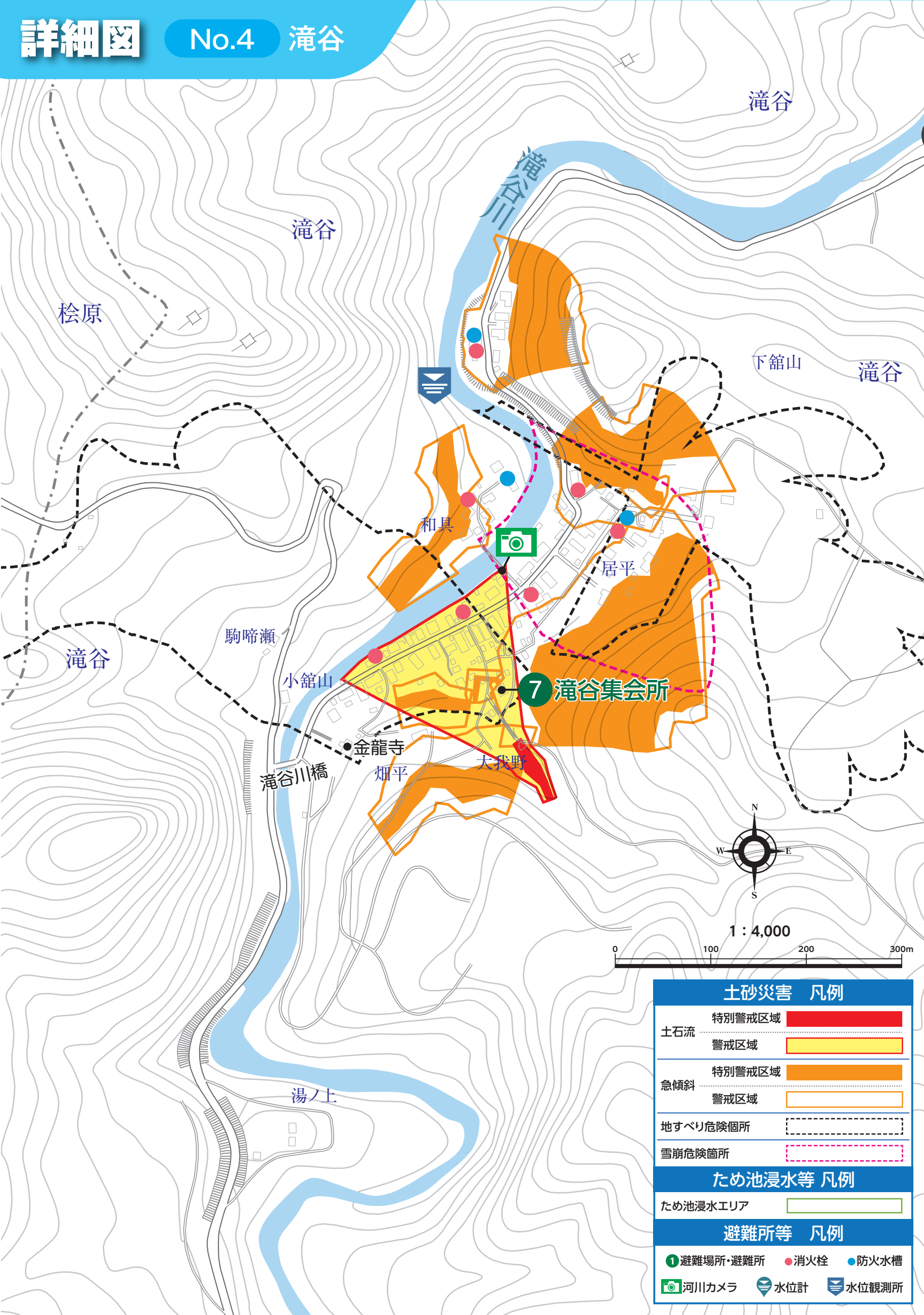
詳細図

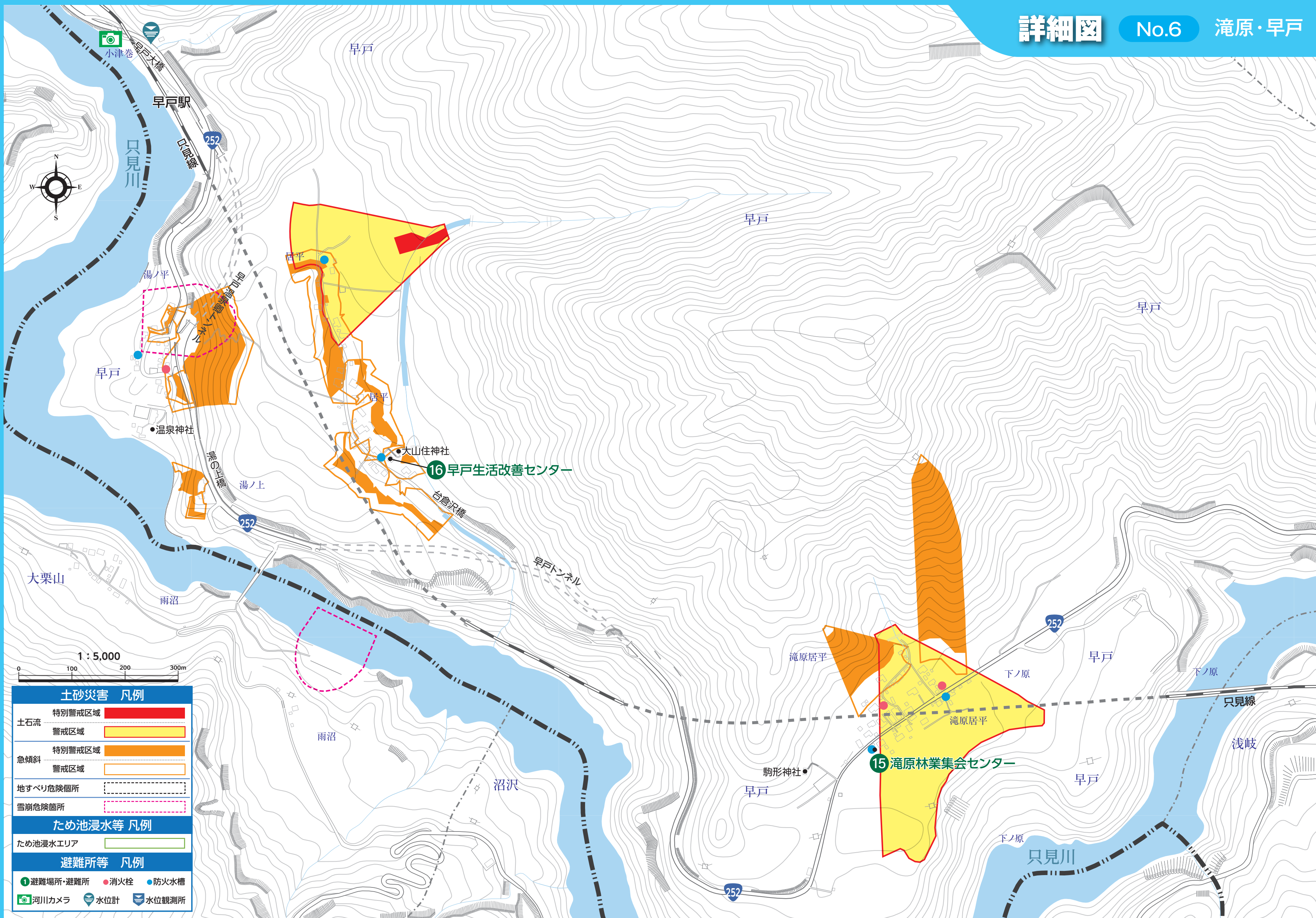
No.1 大谷

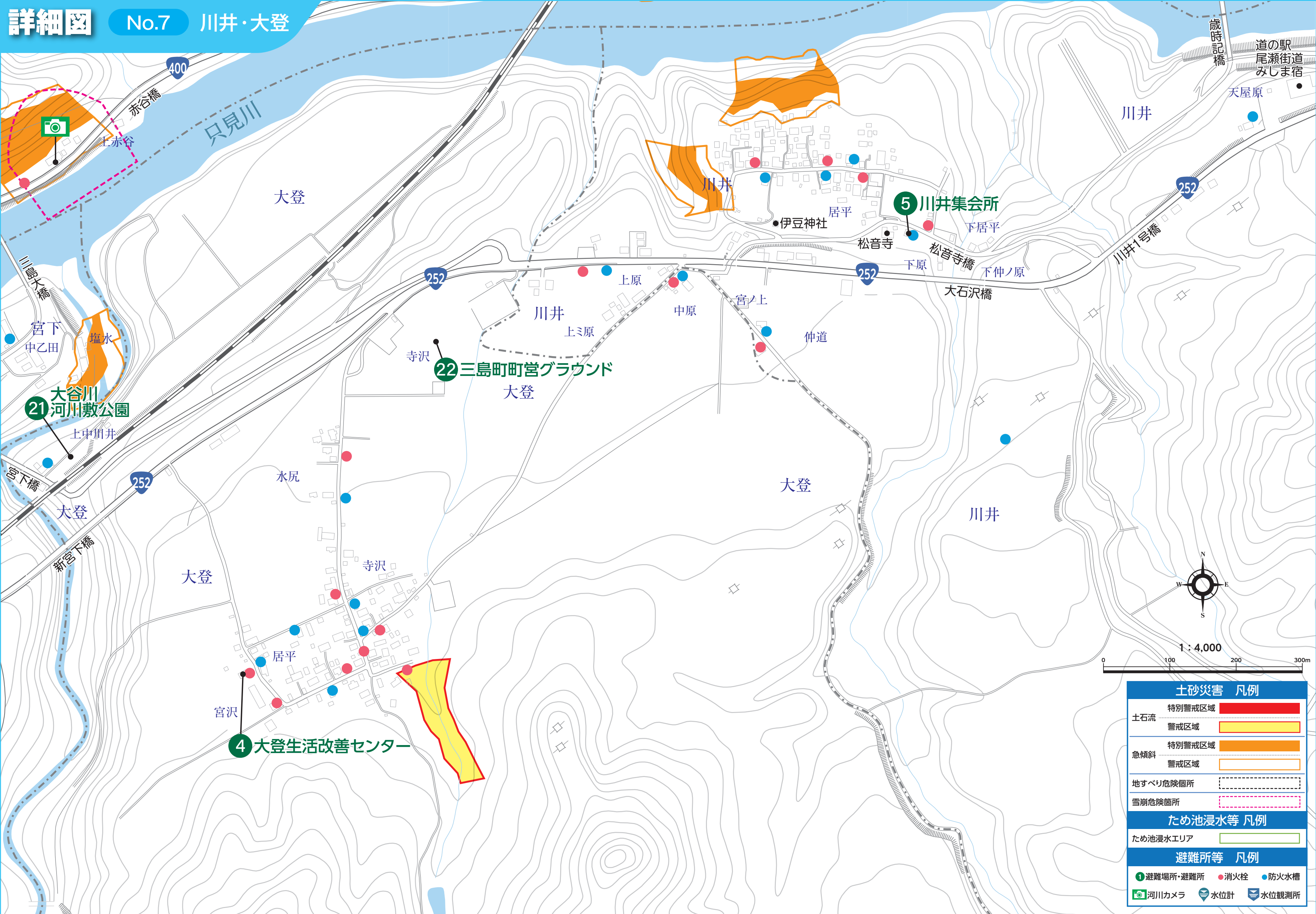


土砂災害 凡例	
土石流	特別警戒区域
	警戒区域
急傾斜	特別警戒区域
	警戒区域
地すべり危険箇所	
雪崩危険箇所	
ため池浸水等 凡例	
ため池浸水エリア	
避難所等 凡例	
① 避難場所・避難所	● 消火栓
📷 河川カメラ	● 防火水槽
📊 水位計	📊 水位観測所

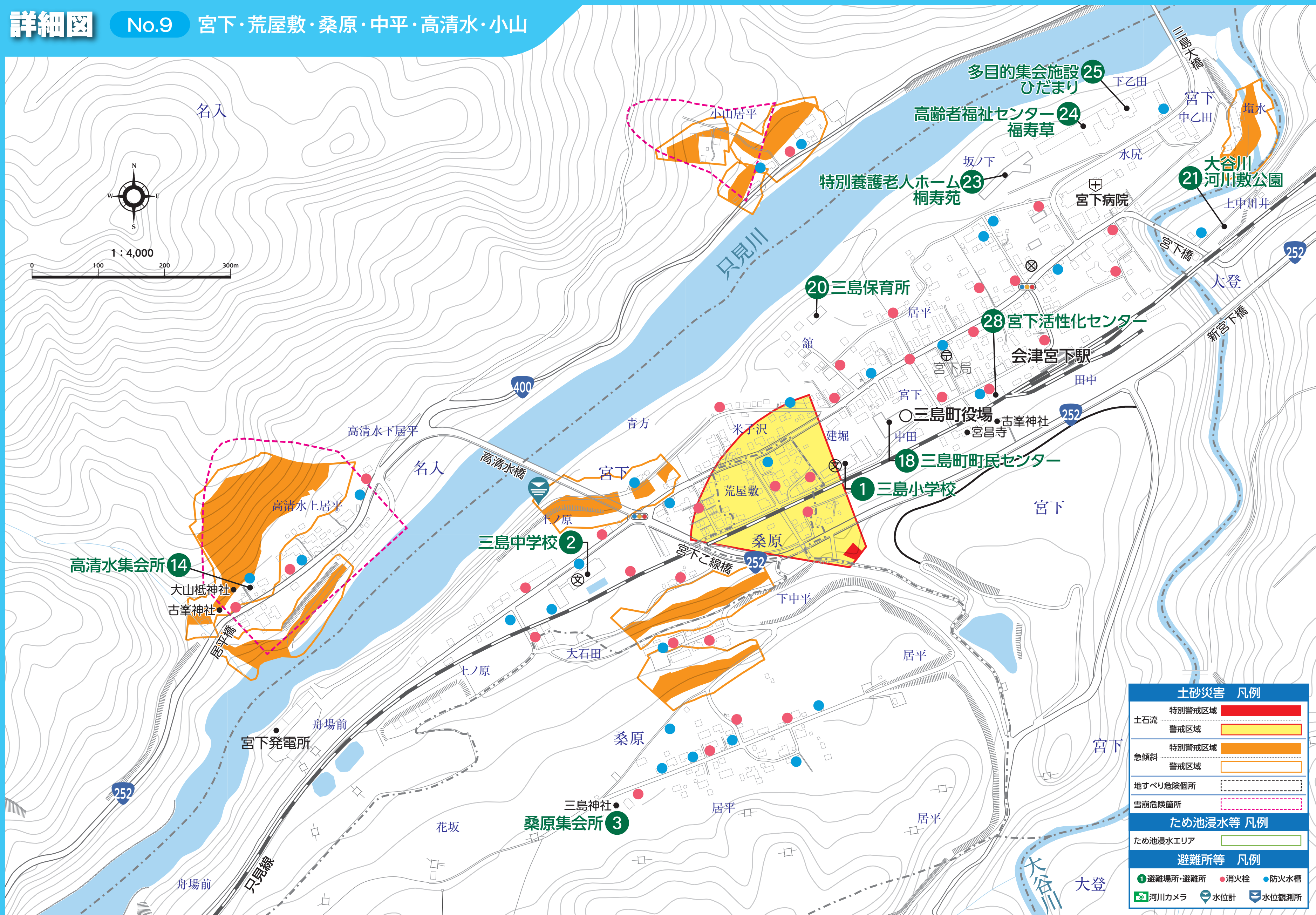




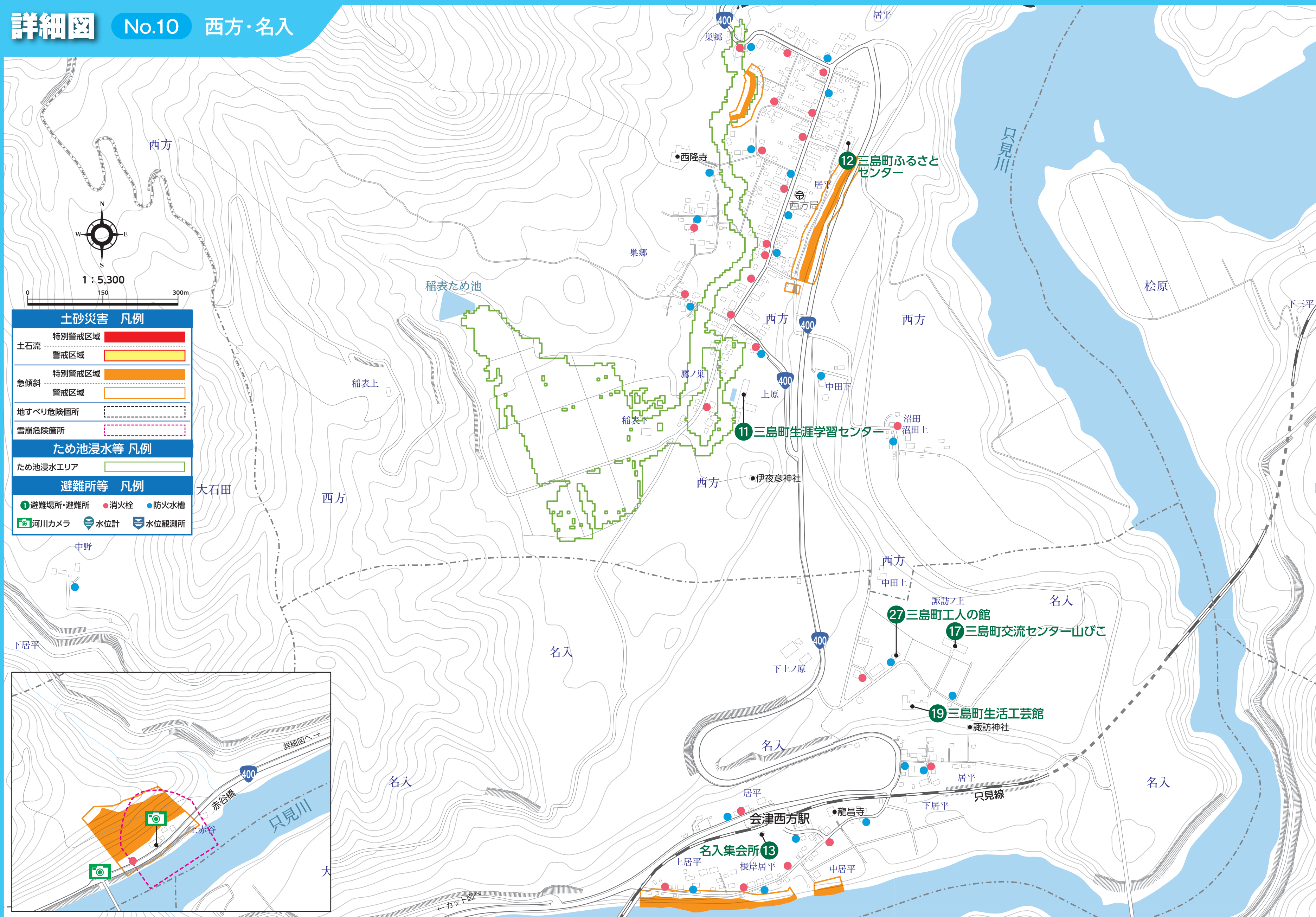








土砂災害 凡例	
特別警戒区域	■
警戒区域	■
特別警戒区域	■
警戒区域	■
地すべり危険箇所	□
雪崩危険箇所	□
ため池浸水等 凡例	
ため池浸水エリア	■
避難所等 凡例	
① 避難場所・避難所	●
消火栓	●
防火水槽	●
河川カメラ	■
水位計	■
水位観測所	■



	施設名	所在地	電話
行政・公共施設	三島町役場	三島町大字宮下字宮下350	0241-48-5511
	三島町生活工芸館	三島町大字名入字諏訪ノ上395	0241-48-5502
	三島町交流センター山びこ	三島町大字名入字諏訪ノ上418	0241-52-2165
学校・保育施設	三島小学校	三島町大字宮下字建堀1846	0241-52-2442
	三島中学校	三島町大字宮下字上ノ原2099	0241-52-2015
	三島保育所	三島町大字宮下字館479	0241-48-5501
医療・福祉関係機関	福島県立宮下病院	三島町大字宮下字水尻1150	0241-52-2321
	三島町社会福祉協議会	三島町大字宮下字乙田889	0241-52-3344
	高齢者生活福祉センター福寿荘	三島町大字宮下字乙田889	0241-52-3344
	三島町地域包括支援センター	三島町大字宮下字坂ノ下659	0241-48-5044
	特別養護老人ホーム桐寿苑	三島町大字宮下字坂ノ下659	0241-48-5033
町内各種機関	福島県宮下土木事務所	三島町大字宮下字水尻1108	0241-52-2311
	三島町商工会	三島町大字下字水尻1134	0241-52-2430
	宮下郵便局	三島町大字宮下字宮下282-1	0241-52-2150
	西方郵便局	三島町大字西方字居平317	0241-52-2235
	会津信用金庫宮下支店	三島町大字宮下字居平137-4	0241-52-2331
	JA会津よつば三島支店	三島町大字宮下字田中1325-2	0241-52-2747
警察・消防	会津坂下消防署三島出張所	三島町大字宮下字居平137-1	0241-52-3032
	会津坂下警察署三島出張所	三島町大字宮下字居平137-1	0241-52-2304
【ライフライン】	電 気	東北電力ネットワーク(株)【停電・緊急時など】	0120-175-366
	電 話	東日本電信電話(株) 【電話の故障、電話の垂れ下がり発見時など】	113固定電話から、 0120-444-113 (携帯電話から)
	水 道	三島町産業建設課	0241-48-5566

気象・防災情報を入手し事前の準備などに生かしましょう。

三島町ホームページ

.....
<https://www.town.mishima.fukushima.jp/>



◎気象庁

気象庁が発表する気象情報・地震・津波情報・データ・火山・気候・環境・海洋情報など
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>



◎内閣府「防災情報システム」

全国の地震・津波・気象・河川・被害状況・ライフライン・災害救助や生活支援など
<https://bousai-system.go.jp/index.jsp>



◎気象庁(気象警報・注意報:三島町)

気象警報や注意報(三島町)を確認出来るウェブサイト
https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=class20s&area_code=0744400



◎NHKあなたの天気・防災(三島町)

天気や災害情報(三島町)をまとめてお伝えするウェブサイト
<https://www.nhk.or.jp/kishou-saigai/city/weather/07444000744400/>



◎国土交通省「川の防災情報」

全国の水位・雨量・レーダー雨量・ダム・水質・積雪深・河川の予警報など
<https://www.river.go.jp/index>



◎福島県河川流域総合情報システム

雨量・水位状況、気象情報、水防情報、土砂災害警戒情報など
https://kaseninf.pref.fukushima.jp/web_pub/riverMap_1.html



◎「Yahoo!防災速報」(ヤフー株式会社)

避難情報や緊急地震速報、津波予報、豪雨予報等の災害情報や今後の予報・予測を緊急のお知らせとして通知するヤフー株式会社のサービスです。
<https://emg.yahoo.co.jp/>



◎「キキクル」(危険度分布)の通知サービス

気象庁で公表している、大雨による「土砂災害」「浸水害」「洪水災害」の危険度の高まりを5段階の色分けで地図上に表示する「危険度分布(愛称:キキクル)」。
大雨による危険の高まりをアプリやメールなどで知らせてくれる通知サービスを、気象庁の協力のもと、民間事業者5社が提供しています。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/ame_push.html

